

2014年度E.FORUM 教師カアップ研修
「探究力をどう育成するか」

「SGHと探究学習の実践」



2015年3月28日

金沢大学附属高校 山本吉次

SGHとは

急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、課題解決能力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成する。

文部科学省「スーパーグローバルスクールについて」ページ
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/sgh/

SGH指定校 56校

SGHアソシエイト校 54校

「SGHと探究学習の実践」

I 金大附属高校の「総合的な学習の時間」
(SGH前史)

II 金大附属高校のSGH構想

III 2014年度の実践

1 「地域課題研究」 2 「異文化研究」

3 教科の「SGH化」

IV 探究型学習の課題

本校の学校概要

- 1945年 金沢高等師範学校に特別科学学級
設置
- 1947年 金沢高等師範大学附属中学校発足
- 1952年 金沢大学教育学部附属高等学校
- 2004年 国立大学法人金沢大学人間社会学
域学校教育学類附属高等学校

生徒数 377名(1学年120名余 3クラス)
教員数 校長・副校長・主幹教諭
教諭21名

I 金大附属高校の「総合的な学習の時間」

1992年 文部科学省研究開発校指定

新教科「国際・文化科」

1995年 その他特に必要な教科「国際・文化科」

2002年 「総合的な学習の時間」先行実施

取り組み事例

中国エリア学習 地域史研究「知郷源」

附属高校版「地球の歩き方」

2009年～ 「生活と社会」：身近な社会、未来社会

ブレスト, ディベート, プランニング対決

「台湾現地学習」：異文化研究

事前研究、現地学習、事後レポート・発表

金大附属高校

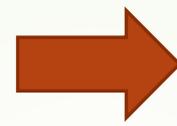
「総合的な学習の時間」の課題

(1) カリキュラムの連動
キャリア教育との連関

(2) テーマの質
調査の質・深さ

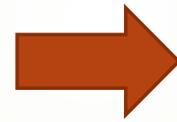
(3) 他教科との関連

研究開発単位Ⅰ



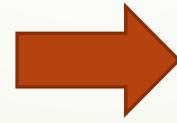
一貫した課題研究の
カリキュラム

研究開発単位Ⅱ



外部資源の導入・活用

研究開発単位Ⅲ



既設教科の内容と方法
の改善(教科のSGH化)

北陸からイノベーションで世界を変えるグローバル・リーダー

シームレスな高大連携プログラムの提案

国際機関職員、国際的技術者・研究者、社会起業家、グローバル企業職員
世界各地における地域医療・福祉従事者、グローバルNPO・NGO職員として活躍



基礎となる5つの人間力

- ① 基礎的教養 ② 課題対応能力 ③ 英語運用力 ④ グローバル・マインド ⑤ リーダーシップ



グローバル人材育成推進機構

SGHプログラム運営委員会

教育政策室

研究域
研究センター 若手研究者

学校教育学類
教育実践支援
センター カリキュラム開
発

国際学類
国際機構留学生
センター 留学生
英語交流

地域創造学類
地域連携推進
センター 臨地研究

教科カリキュラムのSGH化



金沢大学 人間社会学域 附属高等学校

グローバル・キャリアパス

グローバル・リーダーとしての将来像と、そこに到達するためのキャリアパスを描く

グローバル提案

グローバル課題の解決策を模擬国際会議方式で議論し、海外の高校生に発表する

異文化研究

台湾師範大学附属高級中学校生徒と日台文化比較調査、レポートにまとめる

地域課題研究

グローバル社会とつながる地域課題について、解決策を提案する

課題研究一貫カリキュラム

研究開発単位Ⅲ

研究開発単位Ⅰ



海外研究発表
(国際セミナー)

共同研究・セミナー
(連携大学・高校)

海外共同調査
(台湾現地学習)

研究協力

<海外連携機関>

- ・北京師範大学
- ・同 附属高校
- ・香港大学
- ・台湾師範大学
- ・同 附属高級中学校
- ・ソウル国立大学
- ・釜山国立大学
- ・釜山科学英オアカデミー
- ・ウラジオストク国立経済サービス大学
- ・同 附属国際言語学校

<国内連携機関>

- ・北陸先端科学技術大学院大学(JAIST) 産学官連携機構
- ・附高SGH事業地元企業 サポーター

外部資源の活用

研究開発単位Ⅱ



Ⅲ－1 2014年度の実践 地域課題研究

「地域課題研究」 1年生4月～10月

地域や人々を幸せにする方法を提案する

3～5人のグループで調査・研究
プレゼンテーションソフト使用20分間の発表

(1) テーマの決定

インターネットによる地域課題の網羅

⇒KJ法的方法でカテゴライズ（地域課題の整理）

⇒カテゴリー選択⇒3～5人のグループ分け

⇒カテゴリーの範囲でグループテーマ決定

Ⅲ－1 2014年度の実践 地域課題研究

(2) 方法論の指導

最終目標：オリジナルな提言

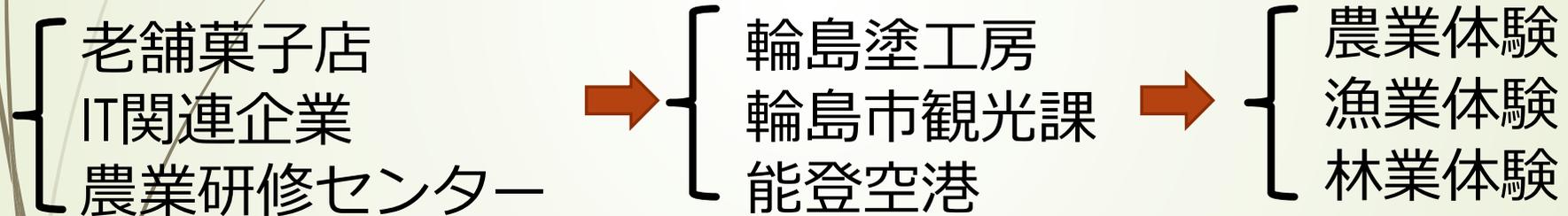
研究方法：①事実確認 ②先行事例
③提案 コンセプト→具体化
→予想される成果

調査方法：①インターネット・文献
②アンケート
③インタビュー
④体験

Ⅲ - 1 2014年度の実践 地域課題研究

(3) 能登現地学習 7月28日・29日

- ・ 地域の人々の声に耳を傾け、様々な人間や自然の営みを感じる
- ・ グループ研究へのヒント



→ レポート
体験のまとめ
体験から得たグループ研究へのヒント

Ⅲ-1 2014年度の実践 地域課題研究

(4) フィールドワーク・聞き取り 夏休み中

- ・ 専門家の指導を受け、従事者の生の声を聴く
- ・ 自ら体験してみる

・ 対象の選定
cf金沢大学研
究者情報

・ 電話によるア
ポ手順の指導

・ 訪問・インタ
ビュー・体験
依頼書持参

・ 発表後
礼状・成果冊子郵送
協力者からの所感依頼

Ⅲ-1 2014年度の実践 地域課題研究

(5) 発表（20分）と評価

- ・ 評価項目の明確化

- ① 調査内容の深さ・広さ（調査力）
- ② 論理性・説得力（論理構成力）
- ③ プレゼンテーションの的確さ（表現力）
- ④ チームワーク（協働性）
- ⑤ 地域や人々を幸せにできるか（創造性）

※ 生徒による5段階評価 教員による口頭評価

- ・ 質疑応答の重視（10分）

「学びあう仲間」

平成26年度「地域課題研究」テーマ例

- 医療タウンの形成で能登地域を便利にする
- 石川の地元企業と高校生を結び付け、企業の知名度を高校生から広めよう
- アイススイーツで金沢の和菓子好きを増やす
- 石川県非公認キャラクター“たまひめちゃん”を活用した地域振興
- 能登の祭りの伝統と今

Ⅲ - 1 2014年度の実践 地域課題研究

(6) 成果と課題

成果・生徒の主体的な学び

①十分+②おおむね 95% (2014年10月生徒アンケート)

・テーマの質：社会と繋がるテーマ

・調査の質：聞き取り・インタビュー・体験
の効果

・地域社会への認識の深まり ●

地域や社会の課題に対する関心が高まりましたか。

①かなり+②まあまあ 79% (2014年10月生徒アンケート)

課題・地域とグローバルの関係の意識化

・評価のレベル基準の設定 (ルーブリック化)

Ⅲ - 2 2014年度の実践 「異文化研究」

「異文化研究」 1年生10月～3月

日本と台湾の文化・社会比較

3～5人のグループで調査・研究
台湾師範大学での英語によるラウンド
テーブル式ディスカッション

Ⅲ－２ 2014年度の実践 「異文化研究」

- (1) テーマ・グループ決定
- (2) 調査
- (3) 発表内容の英語化
- (4) 台湾師範大学生金沢訪問事業
「Taiwan Hour」英語によるプレ・ディスカッション
- (5) 発表内容の修正
- (6) 台湾現地学習
台湾師範大学生・同高級中学生とラウンドテーブル式
ディスカッション, 台湾師範大学生との共同調査
- (7) レポート・発表

Ⅲ－3 2014年度の実践 教科「SGH化」

- ・ 英語科「グローバル・ディスカッション」
金沢大学留学生の活用
- ・ 公民科「新聞小テスト」
- ・ 国語科「新聞投書」
- ・ 数学科「現実問題を解決するための数学」
- ・ 理科「サイエンス・ダイアログ」
北陸先端科学技術大学院大学若手海外研究者との交流

IV 探究型学習の課題

(1) 大学入試との関係

⇔キャリア・パス, 人間力と学習意欲

(2) 生徒の負担

⇔アクティブ・ラーニングのバランス

(3) 教員の負担

⇔ノウハウのマニュアル化
複数教員による担当

(4) 評価の問題

⇔到達点・観点別評価の水準明確化
=ルーブリックの作成